

令和8年3月6日

保護者の皆様

板野東小学校長 三原 善仁

令和7年度 学校評価結果について(ご報告)

保護者の皆様には、本年度も本校教育にご理解ご協力を賜りありがとうございました。さて、1月に実施いたしました、学校教育についてのアンケート結果の成果と課題についてご報告させていただきます。

○成果

(保護者アンケート)

- ・保護者の評価が一番高かったのが「学校は、授業参観や行事を実施するなど、開かれた学校づくりに努めている。」で約90%以上が肯定的意見であった。これは、PTA授業参観を始め、学年行事、持久走記録会等を計画的に行ったことが評価されたと考えられる。また、教室内の座学だけでは得られない「本物」に触れることで、学習効果が飛躍的に高まったこと、子どもたちの人間的成長を促す絶好の機会を得たことが理解され、保護者は、学校が子どもに豊かな経験をさせてくれているという満足感につながったと考えられる。
- ・「学校は、子どもの体力向上に取り組んでいる。」も肯定的意見が高かった。これは、集団登校や体育の授業の工夫、放課後の水泳・陸上練習の積極的な取組により、子どもたちが楽しく学んでいるだけでなく、力も伸びていることが評価されたと考えられる。
- ・「学校は、子どもの人権を大切にし、人権教育に積極的に取り組んでいる。」も肯定的意見が高かった。日々の人権授業の取組が子どもたちの生活に根付き、理解だけでなく、実践にもつながり始めている。今年度は板野郡人権教育研究大会の会場校として、教師も子どもも意識がさらに高くなったのではないかと考える。人権の授業を積極的に行うことで、子どもたちの心を豊かにしていきたい。

(子どもアンケート)

- ・「先生は、勉強をわかりやすく教えてくださいませんか。」という問いに対し、ほとんどのお子様は肯定的な意見が最も高く、前年度よりも数値が上昇していた。これは、日々の授業において、子どもたちが「分かった」「できた」という実感を持って学習に取り組んでいることが考えられる。今後も分かる楽しさを実感できる授業づくりに取り組んでいきたい。
- ・「先生は、地震・火事・台風・不審者からの身の守り方を教えてくださいませんか」という項目でも高い評価を得た。避難訓練や日常の安全指導を通じ、子どもたちの中に「自分の命は自分で守る」という防災・防犯意識がしっかりと根付いているので、これからも命を守る意識の定着を図っていきたい。
- ・「先生はみんなを大切にし、心の勉強をしてくれますか」という問いに、95%以上の肯定的意見が得られた。これは、学校が「自分を受け入れてくれる安心できる場所」とであると子どもたちが感じている証だと考える。互いを認め合い、思いやりの心を育む指導が浸透するよう、子どもたちの心の育成に取り組んでいく。

○課題

(保護者アンケート)

- ・「学校は、子ども同士のトラブルや悩みなどに適切に対応している」、「学校は、いじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる」の数値が低かった。これは、学校が指導を行っていても、その経過や結果が保護者の皆様に十分に伝わっていない、または報告が遅いことにより、不安や不信感を招いている現状があると考えられる。学校が「指導して解決した」と考えていても、お子様の心の傷や保護者様の不安が解消されていなければ、それは真の解決ではないという認識を改めて徹底する必要があると考える。今後は、トラブル発生時は、「その日のうちに」第一報を入れ、学校が事態を把握し動いていることを伝えていく。また、事実確認だけでなく、お子様の気持ちへの寄り添いが疎かにならないよう、子どもたちの不安や辛さを受け止めることを最優先に対応し泰と考える。
- ・「学校は、子どもに自分の考えや意見を伝える力が身につくよう指導している」の数値も低かった。これは、授業が「話を聞く時間」中心になってしまい、子どもたちが自分の言葉で話したり、意見をまとめたりする機会が不足しているのではないかと考えられる。また、間違えることを恐れず、自分の思いを素直に表現できる安心感のある授業づくりが、まだ十分ではないと考えられる。今後は、ペアでの対話やグループ討議、全体発表の場を授業内に設け、子どもたちが「自分の意見を言えた」「友達に伝わった」という経験を積めるよう授業改善を進めていく。他にも、友達と違う意見を持つことの大切さや、多様な考えを認め合う土壌をクラス全体で育てていく。

(子どもアンケート)

- ・「あなたは、家で本を読んでいますか」の数値が低い傾向であった。これは、ゲームや動画視聴などのメディア時間が増加し、家庭での静かな読書時間が確保しにくくなっている現状が考えられる。読書は語彙力や想像力を育む全ての学習の土台となるので、学校と家庭が連携して、短時間でも本を開く習慣づくりの意識付けをできるようにしていく。さらに、学校では、朝の読書活動の徹底、週末の本の貸し出し等を積極的に行うことにより、本を読む機会を増やしていく。
- ・「あなたは、みんなに自分の考えや意見を言えていますか」の数値も低かった。間違いを恐れて発言をためらう傾向や、自分の思いを言語化する経験不足が要因だと考えられる。学校では「安心して話せる雰囲気づくり」を進めているが、自信をつけるには家庭での会話も重要である。学校のことやニュース、日常の出来事について、子どもたちの意見を聞く機会を増やしていけるようにする。また、子どもたちが話し始めたら、否定せずに最後まで聞き、すべてを受け止めることで、話すことへの自信がもてるようにしていく。
- ・「あなたは、家族や地域の人に、勉強や行事をみてもらうことがよくありますか」という項目の数値が低いことは、子どもたちにとって「自分の頑張りが伝わっていない」と感じている可能性がある。子どもたちにとって「見てもらうこと」は最大の学習意欲につながると思う。家庭では、教科書やノート、テストを見せてもらい具体的に声をかけてあげられるように協力をお願いする。また、学校行事の後は「結果」だけでなく「練習の過程」や「係の仕事」などについて話題にし、プロセスを認めてあげられるようお願いする。

【全てのアンケート結果については、ホームページに掲載しています。】